



JIM-NET 便り

9月号 2021年9月28日



ボランティアの先生と遊ぶ子どもたち。



ダラシャクラン難民キャンプで暮らす家族と。

イラク・アルビルは今

長谷部貴俊（海外事業担当）

8月上旬から1か月間、アルビルに滞在しました。前職時代の8年前にアルビルに訪問した時と比べ、街が大きくなり、車や高層ビル数は増えてきている印象です。スタッフに聞くと、新しくできている高級住宅街には、一軒1億円以上する家が多く販売され、もうすでに売れてしまった、と教えてくれました。

多くはありませんが、地元の方々とお話しする機会がありました。その中で印象に残ったのが、とあるクルド人の方の意見でした。「クルド民族が様々な形でサダム・フセイン時代に虐げられてきた。しかし、今の腐敗している政府を見ると、フセイン時代のほうが、システムがあってまだ良かったと思うようになっている」と。この言葉を聞いた時は驚いて、返事もできませんでした。クルド人の一部にはこう思う人も多くはないと思いますが、一定数いるそうです。

一方、「こういう話もあるんだと、私自身驚いた」ということをほかの地元の方に話すと、非常に悲しそうにうつむいていました。また、地元のことを非常に愛する方でも、自分たちの子どもたちに受けさせてあげられる公教育、そしてイラク全体の将来を考えると、チャンスがあればヨーロッパに移住したいという人もいました。

小児がん支援をする中で、医薬品支援やそれに関する資機材の支援だけではなく、治療中の子どもたちが学習の遅れ

がないように、JIM-NETハウス内で2クラスを午前中に運営しています。ある日、年齢が上のクラスを覗くと、4人の子どもたちが生物の授業を受け、先生の質問に対して積極的に答えており、こんなに活発に答えるんだと私は素直に驚きました。また、休憩時には先生やスタッフのバルザンも一緒になり、子どもたちとゲームをしてワイワイと遊んでいました。一般の人々の間には、がんが感染症だと考えている人もまだいますし、治療の副作用で体調がよくない子どももいます。頭ではわかっていましたが、JIM-NETハウスのような環境は子どもたちにとって、とても大切な場所だと実感しました。

また、治療を続けるお子さんで、その家族の家計が厳しい場合、その家庭への訪問をJIM-NETでは定期的に行っています。そこでは、子どもの家庭や学校での様子を聞いたり、家庭内での感染対策をはじめ、家族の話の聞いたりしています。私もアルビル市内の家庭訪問に同行しました。小児がんの治療を継続している11歳の女の子の自宅には、両親と姉1名、兄弟2人の6人家族で住んでいます。「あ、この子は院内学級で積極的に答えていた子だ!」と思い出しました。お父さんは4年前に工事現場で事故に遭ってしまい、それ以来両足が動かなくなり仕事ができず、収入が月150ドル以下だそうです。周りの篤志家に助けをもらうこともあるよう



特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4丁目4番11号 内藤ビル2C

電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net



院内学級でぬり絵。



ですが、正直、イラクの物価は日本より安いとは言え、それでも家族6人ではとても生活できない状況です。JIM-NETでは必要に応じて、自分たちで買わなければならない薬代の補助はしていますが、どうやって生活できているんだろう？と、深く考えてしまいましたし、そんな中でも私たちにお茶や水を出してくれてことを申し訳なく思いました。

別の日には、シリアからの難民が定住しているダラシャ克蘭難民キャンプを訪問しました。車でアルビル市内から約1時間の距離にあり、今もシリアから逃れてきた約1万人が住んでいます。2013年に設立されたこのキャンプで、現在、JIM-NETは家族計画に関する研修、子どもへの粉ミルク、おむつ支援などを行っています。現在は、レストランやいくつかの売店がキャンプ内にできていました。スタッフのリームもシリアから逃がれ、2013年末からしばらくこのキャンプに住んでいた一人です。今、リームはアルビル市内に住んでいます。ここに住み続けている親戚もいます。ある家庭を訪問したところ、現在はコンクリートでできた簡易な家に住んでいます。2013年から初めの数年間はみんなテント暮

らしだったと聞きました。2015年、イラクのスレイマニアに来た時に、市内郊外できたばかりの過激派組織（IS）から逃れてきた人たちの住むキャンプを訪問したことがありました。ごつごつした土の上に、まだ春先なのに、太陽からの熱がこもってしまうテントの中に入れてもらったことがありました。もし自分がここに生活することになったら、1か月もたたないうちに体調を崩してしまうだろうと考えたことを今でも思い出します。それが数か月ではなく、数年続いたんだというリームの話を聞いたとき、言葉を失ってしまいました。UNHCRの今年7月の統計を見ると、アルビル県だけでも12万5千人のシリア難民の方々が、キャンプをはじめとして住んでいることがわかります。そして、今も続くシリアの混乱のため、今も故郷に帰れる望みがない人たちがたくさんいるのです。

ある時、街を車で移動中に駐在員の牧野が教えてくれました。「アルビルの市内には、まだISが入られている収容所もあるんですよ」と。ISはかつてのように、大規模な攻撃や大きな街を占領することはもうありませんが、確かにISによる攻撃は散発的にイラクの各地で起きています。ISは単なる昔の話ではないですし、私が聞いたサダム・フセイン時代を懐かしむ地元の人たちの話も聞くと、対テロ戦争によって起きた様々な問題もISの台頭を含め、現在のイラク社会には、今も大きな課題が折り重なっていると感じました。そして今回の滞在でみたこちらの社会は発展しているように見えますが、とても脆い土台の上に乗っていると感じました。



★現地スタッフから★ 北イラクのクルディスタンから、こんにちは！ Vol.5

私はリーム・アッバスです。28歳で2人の子どもと夫とここアルビルに暮らしています。

私はシリアの出身で、2013年に紛争を逃れここイラクのクルド自治区に来ました。その後はキャンプ暮らしも経験し、その中で2014年からJIM-NETスタッフとして働いています。

はじめは難民キャンプに暮らす妊産婦女性たちの支援が私の主な仕事でした。アルビル市内に引っ越してからは、それに加えて難民や国内避難民の小児がん患者支援、またシリア国内に入ったの医薬品支援なども担当しています。

イラクだけでなく、故郷であるシリアの人たちを助ける機会を私に与えてくれたJIM-NETに大変感謝をしています。また、イラクやシリアの人たちを助けるために、日本の皆さんから長年にわたり多くのご支援をいただ

いています。この場を借りて感謝を述べさせていただきます。

どうかこれからもイラクとシリアの人たちに寄り添い続けてください。皆さんの健康と平和をいつもお祈りしています。ありがとうございます。



Coffee for Peace ! ～絵を描いた子どもたち

8月10日に販売をスタートしたドリップコーヒーもお陰様で多くの方々からご好評を頂戴しております。ちょうど海外プロジェクト担当の長谷部がイラクへの出張も重なり、出来立てホヤホヤのCoffee for Peace ! をアルビル事務所と

JIM-NET ハウスへ届けることができました。

「イルカ」と「ちょうちょ」の絵を描いたアワートと「赤い花」の絵を描いたラワンディクからのメッセージをご紹介します。



アワート
(12歳・急性リンパ性白血病)

「僕が描いた絵がパッケージになって嬉しい。僕も将来、困った人を助けられるような人になりたいです」



ラワンディク
**(13歳・イラクのダラシャ克蘭
難民キャンプで暮らすシリア難民)**

「私の絵がこういう形になって嬉しい！私はコーヒーは飲めないけれど、多くの人の支援になるなら幸せです」



イルカの絵は、4人の子どもたちが描いたものがパッケージにレイアウトされました。オレンジと緑色のイルカを描いたエハラス(12歳)は、サラセミアという血液の病気と闘っていましたが、6月4日に感染症のために急逝いたしました。絵を描くことが大好きだったエハラス。先の絵画展でも彼女の絵をたくさん展示しましたが、Coffee

for Peace ! のパッケージを手渡しすることが叶わず、大変残念です。

子どもたちの絵がドリップコーヒーやチョコ缶の形となることは、子どもたちやその家族、現地 JIM-NET のスタッフにとっても大変励みとなっております。Coffee for Peace ! は初めての取り組みで限定数しかご用意がございません。在庫限りとなりますので、是非、同封のちらしをご参考にご注文下さいますようお願い申し上げます。

子どもたちの絵がドリップコーヒーやチョコ缶の形となることは、子どもたちやその家族、現地 JIM-NET のスタッフにとっても大変励みとなっております。Coffee for Peace ! は初めての取り組みで限定数しかご用意がございません。在庫限りとなりますので、是非、同封のちらしをご参考にご注文下さいますようお願い申し上げます。

JUSTPEACE! イラクとシリアの子どもたちの絵画展



毎年、チョコ募金期間中のバレンタインデー前後に開催してきた絵画展も12回目となりました。チョコ缶の原画を中心に多くの原画や様々なグッズに触れて頂ける貴重な機会ですが、2月は緊急事態宣言下となり、6月に延期をせざるを得なくなりました。

祈る思いで迎えたギャラリー搬入日。恵比寿でご縁を頂いたEBISU ROOMは、小ぢんまりとしたお洒落で可愛い雰囲気の良いギャラリーです。暑い中、荷物を会場に運び終えると床は荷物で覆われ、真白な壁を前に力が抜けかけましたが、スタッフ総出で作業に取り掛かり、レイアウトプランに沿った展示準備完了！

今回は、イラクの難民キャンプに暮らすシリアの子ども

たち、バスラとバグダードの病院で治療を受けている子どもたち、そしてJIM-NETハウスに通う子どもたち…と、場所もバックグラウンドも異なりますが、JIM-NETが関わる沢山の子どもたちの作品と顔写真を壁いっぱい広げました。

コロナ禍の東京・恵比寿。どれだけの方々が来場くださるか全く見当もつきませんでした。初日から久しぶりにお会いする支援者の皆様とお迎えすることができました。マスク装着・距離を保ちつつ、この一年半のご無沙汰を埋める会話も弾み、改めてリアルなイベントの大切さを実感、確認し合った貴重な5日間となりました。

現地の子供たちは、両親が持つスマホを駆使してJIM-NETのSNS投稿もチェックしているため、できるだけ絵画展の日々を投稿し、子どもたちにも楽しんでもらえるよう心掛けました。イラクと日本、遠い距離がありますが、SNSを通してお互いの存在を感じる機会が増えています。

絵画展ではお待ちかねの「Coffee for Peace !」の初披露も叶い、パッケージを手にした方々から「可愛い！」「ちょっとしたギフトに最適！」と嬉しい感想を頂戴しました。早速、お友達へのプレゼントや職場で紹介したいと大量にお買い上げ下さる方も多く、会期中に何度か在庫の補充をして最終日を迎えることができました。



コロナうつに負けないカマタ式7か条

KAMATAの
つぶやき



ワクチン接種が進んでいますが、コロナとの戦いは長期戦となりそうです。「コロナうつに負けないカマタ式7か条」をご紹介します。①朝、太陽を浴びる②軽い運動を継続する③季節の変化を前向きに楽しむ④笑う⑤姿勢よくする⑥希望（目標）を持つ⑦人の役に立つ

コロナうつは内科外来で見る限り、多くなっているように思います。一番大きな問題は、若い人から高齢者まですべての年代でコロナうつが見受けられることです。自分は大丈夫と思わずに、カマタ式7か条を心掛けてみてください。

健康寿命の3本柱は、「食事」「運動」「社会参加」と言われています。コロナに負けず、タンパク質と野菜中心とした食生活を心がけ、運動し、三密を避けながら社会とのつながりを工夫して作ることが大切です。上記の7か条と合わせ、チャレンジしてください。

先の見通しがつかず、自粛疲れでストレスをため込んでいる人たちの中でも、特に40代以降の成人後期（40～65歳）は心の問題に加え、体の問題も関係しながら下り坂に入ります。この時期に起きる『ミッドライフ・クライシス』

について一冊の本にまとめました。沢山の方が注目してくれているようです。是非、ご一読ください。

8月からスタートした“Coffee for Peace！”。湯川れい子さん、大竹まことさん、室井祐月さんも様々な形で広めてくださっています。演歌歌手・神野美伽さんは、ご自身のライブ会場で来場者の皆さんにドリップコーヒーをプレゼントされ、JIM-NETをご紹介くださいました。皆さまの温かなお気持ちでJIM-NETは支えられています。こんな時だからこそ、美味しいコーヒーでコロナ禍のストレスを忘れて一服して頂ければ嬉しいです。



ミッドライフ・クライシス

80%の人が襲われる「しんどい」の正体
青春出版社刊 新書/208ページ
¥1,430 (税込)

鎌田 實 (JIM-NET 代表)



チョコ募金キックオフチャリティーイベント JUSTPEACE! ～虹の彼方へ～

2021年11月9日(火) 19:00～20:30 (予定)
出演：湯川れい子 (音楽評論家・作詞家)、齊藤とも子 (俳優)、鎌田實 (JIM-NET 代表理事・医師・作家)

コロナ禍が続く中でのチョコ募金の取り組みも17年目を迎えます。無観客ライブ配信によるキックオフイベントは、昨年の経験を活かし、視聴者の皆さまにイラクをより身近に感じて頂けるよう企画中です。どうぞお楽しみに！

♥「おうちでイラク」

なかなか訪問することがないイラク。現地スタッフたちが暮らす街の様子や日常のさまざまな表情をお届けします。

♥「JUSTPEACE! ～虹の彼方へ～」

JIM-NETの強力なサポーターであり、平和への発言を続けてこられている湯川れい子さん。「もっと湯川さんの熱いお話を聴きたい！」とのリクエストにお応えし、スペシャルトークにご出演頂きます。

♥ 『チョコ募金 2022』 準備中 ♥

2020年はどうなることかと不安になりながらも、受付スタートと同時にたくさんのお申込みをいただき、たくさんの方から応援をいただきました。皆さまのご支援ありがとうございます。

今年も9月になり、本格的にチョコ募金の準備が始まり、皆さまにいち早く今年のデザインをお届けいたします。今年のデザインはこちらです！



お申込み受付は、11月15日(月)からを予定しております。

今年も子どもたちの可愛い絵と美味しい六花亭のチョコレートをどうぞお楽しみに♥



特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット)
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4丁目4番11号 内藤ビル2C
電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net
郵便振替口座 00540-2-94945 加入者名 日本イラク医療ネット
Facebook、Twitter、Instagram もぜひご覧ください。『JIM-NETで検索』
募金・サポーター会費はこちらへ➡

